

Monthly Report

Vol.148 / 2018 AUG.

2018オープンキャンパス 過去最高862名の高校生が来場！



オープンキャンパスの様子

8月4日（土）10:00～本学でオープンキャンパスを開催し、酷暑の中、高校生（862人）と過去最高の来場者を記録し、保護者（475人）を含めると1337人の方々が来場されました。

オープニングセレモニーでは仙台大学マスコットキャラクターの（エスユーウォー）と登場した遠藤学長が挨拶を行い、在学生から6学科（体育学科、健康福祉学科、運動栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科、現代武道学科、子ども運動教育学科）の学科とイベントの紹介があり、参加した高校生は在学生がどんな専門分野を学んでいるのか熱心に耳を傾けていました。

オープニングセレモニー終了後はアスレティックトレーナー体験やAED体験、北欧保育の紹介など、各学科ごとの体験コーナーや紹介ブースに足を運び、自分の興味がある専門分野を見て、聞いて体験するなど、大盛況となりました。

各学科以外にも「仙台大学の小論文対策講座」、施設や設備が詳しくわかる「キャンパスツアー」、卒業生の活躍が分かる、「オリンピック・プロスポーツに関する展示会」などのブースを設置され、本学の「今」と「過去」について触れました。

遠くから足を運んで下さった高校生や保護者の方々にとって仙台大学の新しい試みや魅力に触れる充実した1日になったようです。



ニュース番組制作体験



スラックライン体験

＜目次＞

・2018オープンキャンパス 過去最高862名の高校生が来場！	1
・「就活キックオフセミナー第2回戦」を開催しました ・H30年度SD研修会を実施しました	2
・ペットボトルで簡単パン作りを実施しました ・第4回心池会杯争奪剣道大会 報告	3
・本学と柴田町議会が初の懇談会を開催 ・本学を会場に平成30年度 ウィンタースポーツコンソーシアムスケルトンアカデミーを実施しました	4
・女子バスケットボール部 野外活動 ・宮城県教育委員会主催「熱中症事故防止研修会」が開催されました	5
・女子サッカー部 2018東北Liga Student 優勝の報告 ・現代武道学科 集中講義「韓国伝統武道」の実施報告	6
・楽天イーグルスにてインターン研修が行われました ・赤十字救急法救急員養成講習を開催しました	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.5	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp



冒頭の遠藤保雄学長の挨拶



講演中の様子

「就活キックオフセミナー第2回戦」を開催しました

8月7日（火）に3年生を対象とした「就活キックオフセミナー第2回戦」を開催いたしました。夏休み期間中ではありましたが、就職活動にむけた意欲をさらに向上させようと実施したものです。

セミナーでは、冒頭に遠藤保雄学長が登壇し、インターンシップ活動の重要性や昨今の就職活動を取り巻く環境などについて訓示され、出席者を激励いたしました。その後、就職専門情報会社の講師の方から就職サイトの活用方法ならびに筆記試験対策について講演頂き、参加した学生からは「今、自分が何をしなければならないのかを再認識することができた」「これまでは自己分析などを中心に行ってきたが、今後はWebテスト等の具体的な対策にも力を入れて行きたい」などの感想が寄せられました。既に3年生の就職活動は実質的に始まっており、入試創職室では今後もセミナー等を通じて、より一層学生の就職支援に努めてまいります。

<報告：入試創職室>



研修中の様子

H30年度SD研修会を実施しました

8月8日（水）9日（木）秋保「蘭亭」にて「H30年度学校法人朴沢学園SD研修会」がおこなわれました。

昨年4月に「大学設置基準等の一部を改正する省令」が施行され、職員が大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上するための研修、いわゆる「SD」スタッフ・ディベロップメントが義務化となり、大学教育において、学生をどのように成長させるか、保護者の期待にどう応えるのか、どのような人材を社会に送り出すのか等々の多様なニーズに対応することが強く求められており、この求めに対応するために教職員の知識やスキル向上を目的とした研修会で本学園はこれまでも毎年実施してきました。

初日は公益財団法人日本高等教育評価機構 事務局長兼評価研究部長 伊藤敏弘講師による「日本高等教育評価機構による第三期 機関別 認証評価」について、同研修員（仙台大学職員）石森靖明氏によるワークショップ<独自基準と特記事項を考える>について行われ、2日目は南條充寿現代武道学科長による「リオ五輪を戦って～2020東京五輪への挑戦について」、本学卒業生で株式会社グラン・スポールあすと長町店 橋本祐馬チーフによる「健康講話～身体改善について」行われ、この2日間、非常に有意義な研修会となり、自分を磨き、視野を広げ、また新たな気持ちで仕事に取り組むことに繋がりました。

また今回の研修会にはベガルタ仙台レディース所属で普段はATルーム川平キャンパス勤務している、仙台大学職員の奥川千沙選手も参加され、この研修会で大学職員と交流を深めました。今後もベガルタ仙台レディースでの活躍を応援しましょう。



奥川千沙選手



パン作り中の様子

ペットボトルで簡単パン作りを実施しました

8月9日（木）に町内の児童クラブに通う小学生約100名を対象に、猛暑の中、熱中症予防に配慮し、平良ゼミの学生と女子ソフトボール部員に協力してもらい、ペットボトルを使って簡単にできるパン作り教室を開催しました。

このパン作りの特徴はペットボトルで作るところです。初めにボウルに強力粉やドライイーストなどパン生地材料すべてを混ぜ合わせていきます。その時は「砂糖」や「塩」「強力粉」などを味見させ、判別させながらパン生地を混ぜ合わせていきました。すべての材料がまざったらペットボトルに入れ、シェイクして混ぜ合わせます。その後30分間、首からペットボトルをぶら下げて、ゼミと女子ソフトボール部の学生と一緒に体を動かすゲームを行いました。この上がった体温を利用してパンを発酵させます。子どもたちにとって、大学生のお兄さんお姉さんとゲームを行うのはとても楽しかったようです。

発酵した生地が入ったペットボトルはパンパンに膨らんでいます。この膨らんだ生地を牛乳パックで自作した型に移します。ペットボトルを逆さまにしてキャップを外すと「ポンっ」という音とともに生地が飛び出しますので、子どもたちは大騒ぎで型に生地を流し込んでいきます。型に流し終わるとオーブンで焼き上げます。

焼きあがった自分のパンは自宅へ持って帰っていただき、試食用のパンを皆で食べ、「美味しい」や「楽しかった」「また、作りたい」などの声をいただきました。

最後に、パン作りを通して子どもたちに食育をする機会をいただき、西住・船岡放課後児童クラブの皆様、施設利用にご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。

<報告:運動栄養学科 平良拓也講師>



大会中の様子

第4回心池会杯争奪剣道大会 報告

8月11日（土）・12日（日）の両日仙台大学剣道部心池会（OB会）主催の第4回心池会杯争奪剣道大会と第5回心池会剣道練成大会が仙台大学第五体育館で開催されました。当日の参加校は高校48チーム・中学校29チーム出場（420名）と、OB・学生・保護者を含めると約650名となり、広い会場は熱気と気迫に包まれました。中学生・高校生にとっては、新チームでの試合となるため、公式戦初出場の選手や新しいチーム作りを考える監督たちにとっては、絶好の大会となりました。また、中学・高校が同一会場のため互いの試合を観戦することもでき、運営する側も移動や伝達等がスムーズに行うことができました。

大会終了時には、OBによる稽古会や懇親会も開催され、久しぶりの再会と道場での稽古に学生当時を懐かしく思い出されていました。さらに、仙台大学の学生にとっても大会の運営や、審判技術の実践練習の場として貴重な二日間になったと思います。最後に、立派な大会会場をお貸しいただいた大学、準備等にご尽力いただきました大学関係者や学生の皆様に感謝申し上げ、ご報告とさせていただきます。

<報告:仙台大学剣道部心池会事務局>

本学と柴田町議会が初の懇談会を開催

～地方大学振興法の活用や本学の地域での経済効果など活発に意見交換～



会議の様子

本学は柴田町議会議員の皆様方との懇談会を8月2日（木）に開催し、「知の拠点・仙台大学」と「地域」との連携・協調の在り方などに関して活発な意見交換を行いました。

今回初めての開催となった懇談会では、まず朴澤理事長・学事顧問から、「地方大学振興法が制定され地域として国からの助成金を確保し、本学の知的資源を活用して地域活性化の事業を行う道が開かれた。今後、その活用に向け連携していきたい」との提言がなされました。また、遠藤学長からは、仙台大塾（仙台大学学生による柴田町の小学生への夏休みの学習塾）、子どもを対象にした柔道塾や新体操教室の開催など柴田町での数多くの社会貢献事業の説明がなされ、更に、本学の柴田町への立地による経済効果を生み、柴田町の財政にプラスとなる地方交付税の収入をもたらしている旨が説明されました。

出席した議員の皆様からは、この懇談を通じて、近くて遠い存在であった本学について理解を得ることができ極めて有意義であったなどの意見が出されました。特に、本学の卒業生でもある安部俊三議員からは、「スポーツ分野での本学の貢献についての期待が表明され、今後も懇談を続けていきたい」と付言されました。



集合写真



プッシュの様子

本学を会場に平成30年度ウィンタースポーツコンソーシアム

スケルトンアカデミーを実施しました

8月27日（月）8：30～LC棟1階にて、平成30年度ウィンタースポーツコンソーシアムスケルトンアカデミーの開校式が行われました。

本事業は北海道庁が主催のもと、8月26日（日）～9月1日（土）まで地域のタレントアスリートの発掘・育成事業において発掘された、高校1年生から3年生の5名が本学の施設や講義棟を利用し、未来のオリンピック選手になるためのプッシュトレーニングやスプリントトレーニング、映像分析、スポーツ栄養、スポーツ心理学などの専門知識を学びます。

開校式でははじめに日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟役員の鈴木省三教授が、「宮城と北海道のタレント発掘で選出された皆さんには是非、仙台大学の素晴らしい環境を活用し、またオリンピックメダリストのドナ・フレイトンヘッドコーチから多くのことを学んでください」と挨拶され、遠藤学長が「ボブスレー・リュージュ・スケルトン競技は国際的競技となっている中、イギリスからドナ・フレイトンヘッドコーチも来ているので、是非この機会に英語も学んでほしい。」更には「プッシュトラックが国内にあるのは本学と長野スパイラルだけになります。総合的に学べる仙台大学を最大限に活用し、ケガをしないよう注意しながら挑戦してください」と話されました。

また選手からの抱負では、北海道出身の1年生臼井貴将選手は「今回の合宿で今後の活動に生かせるようなものをたくさん吸収していきたいと思います」や明成高校2年生の木下凜選手は「今回の合宿でお互いに切磋琢磨しいろんなことを学びたいと思います。」などと力強い抱負を語ってくれました。

開校式終了後には早速、第2グラウンドプッシュトラック場にてプッシュトレーニングを行いました。



集合写真



野外活動中の様子①②



女子バスケットボール部 野外活動

女子バスケットボール部員28名は、平成30年8月13日から15日まで南蔵王野営場にて、2泊3日の野外活動を行いました。目的は、野外活動を通じ個々の発信力を高め、チーム力の強化を図ることです。体育館での練習も勿論必要ですが、いつもと違う環境のなかチームで活動することで、仲間の新たな一面を発見できたり、自分を見つめ直すきっかけになればと思い、一昨年から野外活動を取り入れました。野外教育専門の岡田講師に企画運営を依頼し、岡田ゼミ生の大学院生・4年生に指導スタッフとして参加してもらいました。

今年の登山は、かなりハードな内容でした。初日にキャンプ場を出発し、山の中でブルーシートを使って2泊しました。7人1班になって登山を行い、ビバーク（山中泊）は更に半分に分かれ3-4人で宿泊。2泊目は、希望者はソロ（1人）で宿泊でした（ソロで宿泊を希望した者が4人!!）。

登山は、とても急な上り坂や何かに捕まらなないと降りられない道など、本当に大変でした。キャンプ実習名物のジャンボリーコースと屏風の壁も登りました。夜は、上級生がこれまで培った火おこしの技術や、調理の仕方を班員で教えあいました。全ての班に同じ食材を配り、メニューは各班で考えました。色々な料理が出来上がっていて面白かったです。また、どの班も美味しく食べられたようです。3日間とも晴天で、暑さにも苦しみました。2泊分の食料や飲料水、寝袋や着替えを詰めたリュックはかなり重く、出発前に心が折れそうになっていた選手もいましたが、なんとか宮城県最高峰の屏風岳を含む3つの山頂を越えゴールすることができました。

感想には、「初日は、あまり後ろを気にかけて登山していなかったが、3日目には、皆が周りの人にも配慮しながら歩くことができた」「たくさん弱音を吐いてしまったことが一番の反省。改めて、仲間の力の大きさを感じた」など、色々な気づきがあったようです。

バスケットボール部は、これから全国大会予選が始まります。日々の練習の成果に加え、野外活動の成果をも発揮できるように、チーム一丸となり戦いたいと思います。

<報告：女子バスケットボール部監督 菅野恵子助教>



「熱中症の予防方法・熱中症の対処と対応」（鈴木のぞみ助手）



「栄養学の側面から見た熱中症予防」（真野芳彦准教授）

宮城県教育委員会主催「熱中症事故防止研修会」が開催されました

8月20日（月）に宮城県内高等学校および支援学校の保健体育科の先生方を対象として、宮城県教育委員会主催「熱中症事故防止研修会」が本学で開催され、約110名の方々が熱心に学ばれました。この研修会は、高校生が安全に活動できるように保健体育科主任や各運動部の顧問が熱中症に関する正しい知識と予防方法を身に付けることを目的としております。「熱中症の予防方法・熱中症の対処と対応」（鈴木のぞみ助手）、「栄養学の側面から見た熱中症予防」（真野芳彦准教授）と本学教員が2つの講義を行い、参加された方からは「専門的なことを具体的に説明していただきとても参考になりました。」との感想が寄せられました。



集合写真



船木里奈選手（3年）がMVPと得点王（14得点）の個人2冠を獲得

女子サッカー部 2018東北Liga Student 優勝の報告

8月8日（水）山形県酒田市北港公園多目的グラウンドにて行われた2018東北Liga Studentの決勝戦において聖和学園高校を1対1（PK3対2）で破り、優勝・3連覇を達成することができました。また、併せて本学女子サッカー部3年の船木 里奈がMVPと得点王（14得点）の個人2冠を獲得することができ、大変嬉しく思っています。

本大会は、東北の各県トップレベルである高校と大学12チームが参加しました。大会形式は、4月上旬～7月末までの3か月間を使って2グループに分かれた総当たりのリーグ戦を実施し、その後、各グループの上位2チームが8月7日（火）、8（水）に決勝トーナメント（山形県酒田市）を戦うレギュレーションでした。本学は、予選リーグを全勝のグループ1位で突破、8/7（火）の準決勝では常盤木学園高校に2対1で勝利、翌8日（水）の決勝戦において聖和学園高校に1対1（PK3対2）で勝利し、優勝・3連覇を達成することができました。

準決勝、決勝戦では2日間とも大変な暑さの中で本学の選手達は思うように動けず、また、相手チームの素晴らしいプレーに自分達の理想とするサッカーを出せず、苦しい試合展開ではありましたが、大学生として意地とプライドで勝利を手繰り寄せることができました。大会を通じてベンチにいる監督の私には激励よりも叱咤されることも多かったが、選手達が共に助け合い心身ともに逞しく戦ってくれたことに深く敬意を表します。

表彰式では、全チームを前にして主将（4年）の越後希波が「切磋琢磨できる素晴らしい相手がいるから自分達が強くなったのでここにいる皆さんに感謝したい」とスピーチし、MVPの船木里奈も「自分一人の力ではなく、支えてくれる仲間のおかげで活躍できたので、仲間感謝したい」とスピーチしてくれたことは、大会を通じて選手としてだけでなく、一人の人間として成長してくれたと実感しており、このような選手育成及びチーム強化の場を与えてくれた対戦相手や大会事務局にも深く感謝します。

そして、本大会で得られた経験や成果・課題を秋から始まる東北地域大学女子リーグ、皇后杯、インカレに生かしていきたいと思えます。

<報告：女子サッカー部監督 黒澤尚講師>



講義の様子



集合写真

現代武道学科 集中講義「韓国伝統武道」の実施報告

現代武道学科の集中講義「韓国伝統武道（テコンドー）」が8月4日から7日まで第三体育館剣道場で行われました。講師は今年度で3回目となる金址赫先生（韓国：光州大学）をお迎えして学生24名が受講しました。講義内容はテコンドーの歴史、基本動作、プンセ（形）、用具を使用しての技の練習などであり、最後に基本動作とプンセ（形）の実技試験が行われ無事に終了いたしました。初日は、オープンキャンパスの学科イベントとして授業を公開し約100名の来場者がありました。

<報告：現代武道学科>

楽天イーグルスにてインターン研修が行われました

夏休みの期間中に集中授業として楽天イーグルスにてキャリアプランニングⅡプロスポーツコースのうち、3コースにてインターン研修が行われました。

この研修は、3/15付で楽天野球団と仙台大学が締結した「アカデミック・パートナーシップ」に基づくもので、今年から行われることになったインターン研修です。



●試合興行運営コース 平成30年8月20日（月）～22日（水）

・初日は楽天野球団の事業戦略や様々な取組に関する講義を受け、球場の施設見学や詳細の説明を受け、2-3日目は試合興行運営の現場にて、興行運営準備、入場口での顧客対応やエコステーションでのボランティア活動など試合興行運営に係るさまざまな業務を体験しました。



●イベント運営コース 平成30年8月20日（月）～22日（水）

・初日は試合興行運営コースとともに講義と施設見学を実施、2-3日目はステージイベントの補助、観覧車やメリーゴランドでの顧客対応、お子様向けイベントの運営などさまざまなイベント現場での運営を体験しました。



●コーチングコース 平成30年8月22日（水）～24日（金）

・コーチングコースでは、初日球団戦略の講義や球場見学の後、一軍練習見学、試合見学を行いました。2-3日目は、東北楽天リトルシニアや楽天イーグルスアカデミー・ベースボールスクールの現場見学を行い、指導方法を学びました。



各コースに参加した学生は「球団職員の仕事の概要を知ることが出来てよかった。入社してもない先輩の話聞いて大変参考になった」「普段見ることが出来ない球場施設の内部をみる事ができて貴重な経験でした」といった感想を述べていました。

<報告：池田敦司教授>



胸骨圧迫



搬送法



気道確保

赤十字救急法救急員養成講習を開催しました

夏休み中の3日間、仙台大学に赤十字指導員2名をお招きし、赤十字救急法救急員養成講習を開催しました。受講者はアスレティックトレーナー部、アメリカンフットボール部、陸上競技部、トレーナーコース学生、健康管理センター職員らで、基礎講習は20名、養成講習は13名が受講しました。主な実技にはAEDの使い方、心肺蘇生法、応急処置、搬送方法などが含まれ、受講者らは真剣な面持ちで取り組んでいました。

現代武道学科3年磯崎彩喜子（いそざきさきこ）さんは、講習を受け次のように話してくれました。「私はアメリカンフットボール部のマネージャーをしています。ケガが多いスポーツなので、選手に安心してプレーをしてもらえるよう、この講習会に参加し正しい知識を身に付けようと思いました。私たちマネージャーも、ケガが起きた際に適切な対処が出来れば、もっと選手の力になれると思います」

スポーツ現場に緊急事態は付き物です。あなたは選手の安全を守ることができますか？

<報告：鈴木のぞみ助手>



集合写真

「高校スポーツの安全を守る」Vol.5

今回は、夏休み期間中の川平ATRの熱中症予防活動と、本学AT学生教育について紹介致します。

(担当：小野勇太助手)

<夏休み期間の部活動>

8月の川平ATRでは、対象としている明成高校が夏休みに入り、より運動量の増した練習が各スポーツ現場にて実施されています。今年是一段と猛暑で熱中症予防活動として、我々高校ATの活動が一層、重要な時期となりました。夏休み前に、各部活動毎に、熱中症予防講習会を実施していたこともあり、指導者や選手たちは熱中症の予防知識を活かし、各自様々に実践し、部活動中の重度な熱中症を予防しています。高校ATの活動としては、日々練習会場の気温、湿度、WBGT(暑さ指数)を測定し、掲示板に測定結果を表示、現場指導者と各選手達へ情報提供します。また、水分と塩分補給、こまめな休息を取るよう声かけをしています。運動後には、ATR前に準備してあるアイスバス(氷水を入れた浴槽)にて、運動後の持続した体温上昇を抑え、疲労軽減を促し次の練習へのコンディショニング(準備)として実践させています。普段からの声かけを通して、指導者や選手達の予防意識の高まりを感じています。



①気温・湿度・WBGTを測定



②現場指導者へ情報提供する様子



③アイスバスをする様子

<学生教育 ～Bush Clover Camp(明成高校男子バスケットボール部)への学生ATサポート～ >

8月8日～15日まで、全国から複数の強豪校や国体チームが明仙バスケラボにて、Bush Clover Campが開催されました。それに伴い、仙台大学の学生ATがトレーナーブースを設置し、テーピングやアイシング、そして試合中の応急処置など、様々な活動を学生主体にて学んでいました。川平ATからも高校ATとして、高校生の特徴や現場の厳しさ、やりがい、今後の職域としての可能性などを伝え、現場での教育にも力を入れています。こういった現場経験を通して将来の「高校スポーツの安全を守る」人材が本学から世に送り出すことができるよう、引き続き学生指導についても力を入れていきます。



④試合を見守る学生AT達



⑤応急処置を行う学生AT



⑥学生ATの指導にあたる様子

次回は、夏休み中のStrength & Conditioningについて紹介予定です。(担当：浅野勝成助手)